

事業概要及び事業評価手法 〔港湾事業〕

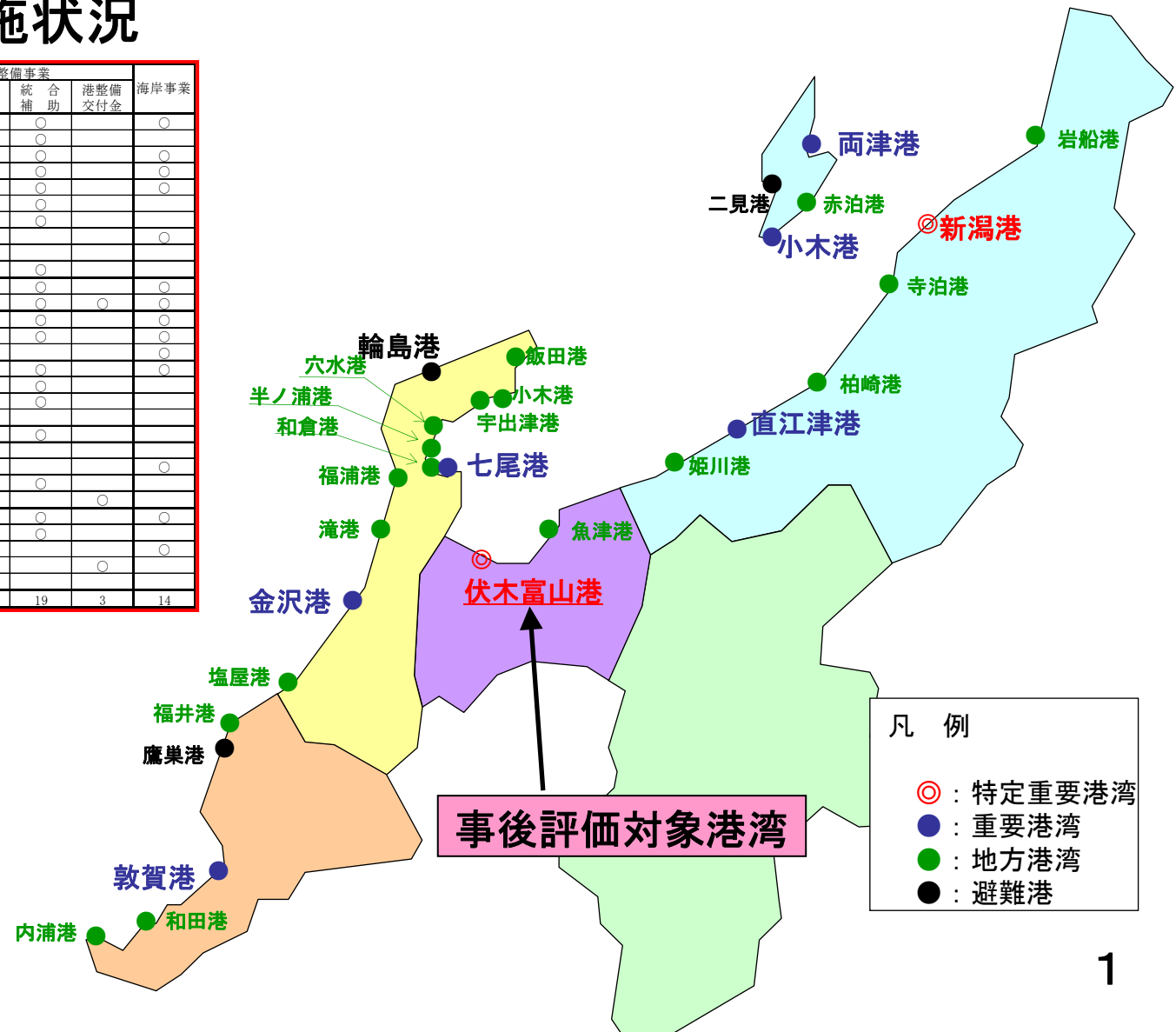
平成 1 9 年 1 2 月
北陸地方整備局

I . 北陸管内の港湾事業概要 (審議対象事業の位置付け)

北陸管内の港湾

港湾の事業実施状況

	特 定 重 要 港 湾	重要港湾	地方港湾	避難港	港湾整備事業			海岸事業
					港 湾	環 境	統 合 補 助	
新潟県		新潟港			○	○	○	○
		直江津港			○	○	○	
		両津港			○		○	○
		小木港					○	○
		岩船港			○	○	○	○
		寺泊港			○		○	
		柏崎港			○		○	
富山県		二見港			○	○		○
		伏木富山港			○	○	○	○
		魚津港			○	○	○	○
石川県		七尾港			○	○	○	○
		金沢港			○	○	○	○
		飯田港			○		○	○
		小湊港			○		○	○
		宇出津港			○	○	○	
		穴水港			○	○	○	
		半ノ浦港					○	
		和倉港					○	
		福浦港						○
		滝港					○	
福井県		敦賀港			○	○	○	○
		福井港			○	○	○	○
		和田港			○	○		○
		内浦港						○
合 計	2	6	18	3	19	13	19	14



北陸における港湾整備の方向

現状と課題

- ・日本列島の扇の要に位置するアジア交流の玄関
- ・厳しい自然と安心な生活の確保
- ・豊かな自然と個性的で特色ある文化

地域づくりの方向性

①海と空を活かした元気な北陸の創出

- ・国際物流ネットワークの拡充による国際競争力の強化・・・新潟港、伏木富山港、金沢港 など
- ・日本海交流軸の拠点機能の拡充・・・伏木富山港 など
- ・海上交通の利便性向上・・・新潟港、敦賀港、輪島港 など
- ・産業活動の支援と活性化・・・直江津港 など

②安全安心な北陸の海と暮らしの実現

- ・地震、台風等の自然災害の克服・・・直江津港、七尾港 など
- ・すべての人が安全、快適に暮らせる生活環境の実現・・・伏木富山港 など
- ・冬にも強い経済社会活動の確保
- ・海難事故の防止及びテロ等に対する危機管理対策の強化・・・大型浚渫兼油回収船「白山」 など

③豊かな海辺の自然との共生とみなとまち文化の継承

- ・美しく豊かな海辺の自然との共生
- ・歴史・文化を活かした個性的で魅力ある空間の創出・・・伏木富山港、敦賀港 など
- ・地域環境への負荷の軽減と循環型社会の構築・・・金沢港、姫川港 など

観光交流による地域活性化

○みなと観光交流の促進

みなとを拠点とした観光交流の促進による地域活性化を図る取り組み



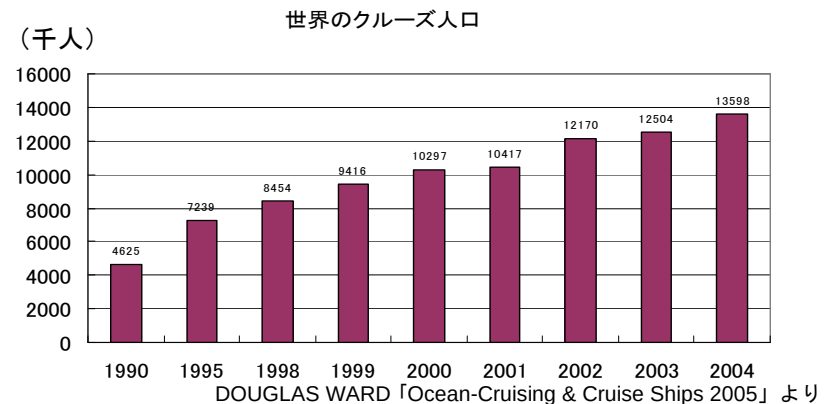
クルーズ船によるみなと観光交流



多くの観光客や地元利用で賑わう 七尾フィッシャーマンズワーフ

世界のクルーズ人口

2004年の世界のクルーズ人口は1360万人（対前年度比8.7%増）
日本は16万人（うち外航7万、内航9万）と1.2%程度。

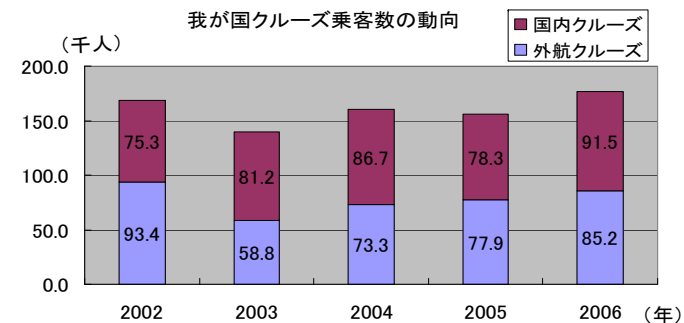


我が国のクルーズ人口

2006年のクルーズ人口は17万7千人（対前年比13.1%増）

内訳：外航クルーズ乗客数約8万5千人（同9.4%増）

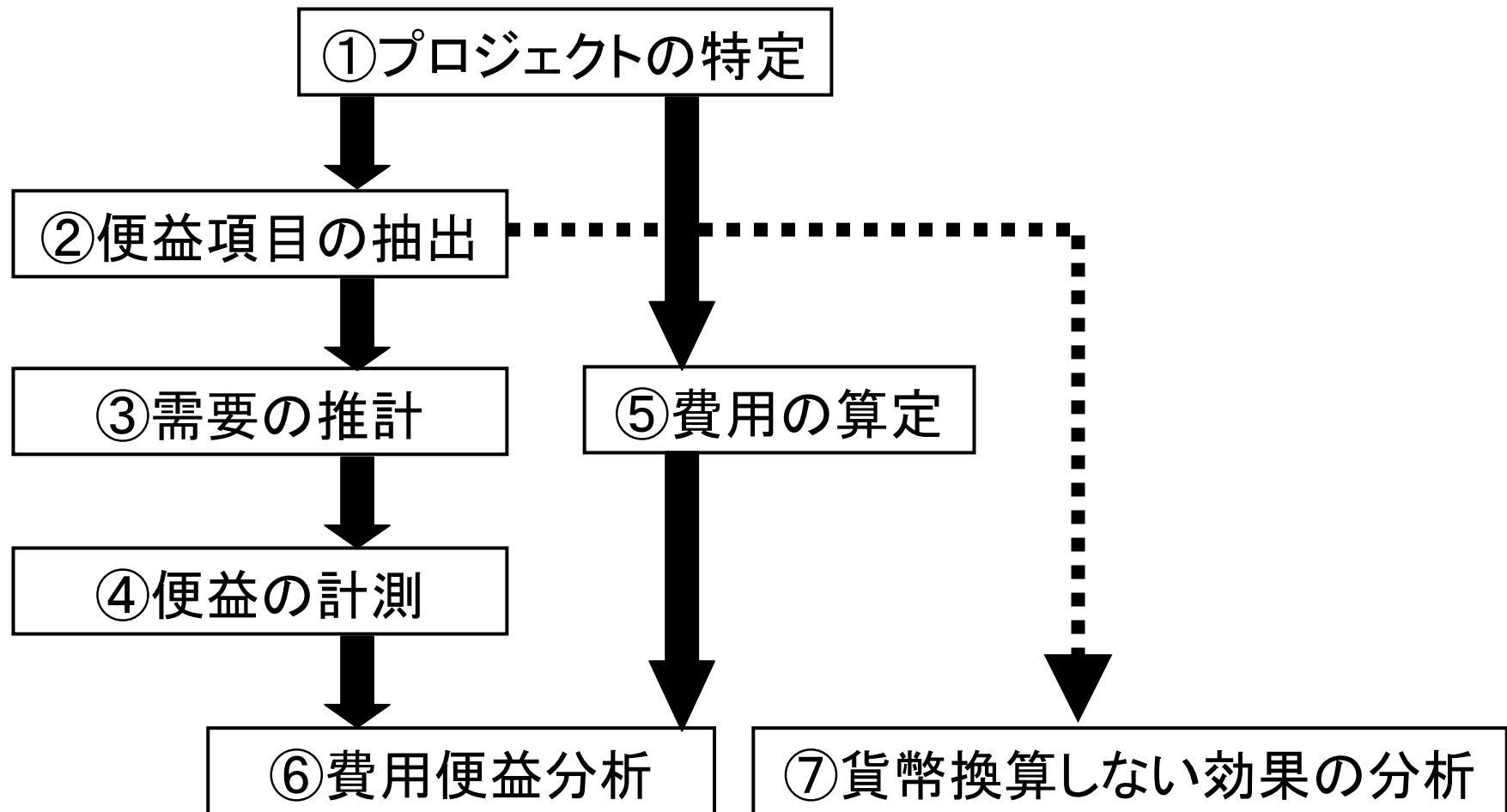
国内クルーズ乗客数約9万2千人（同16.9%増）



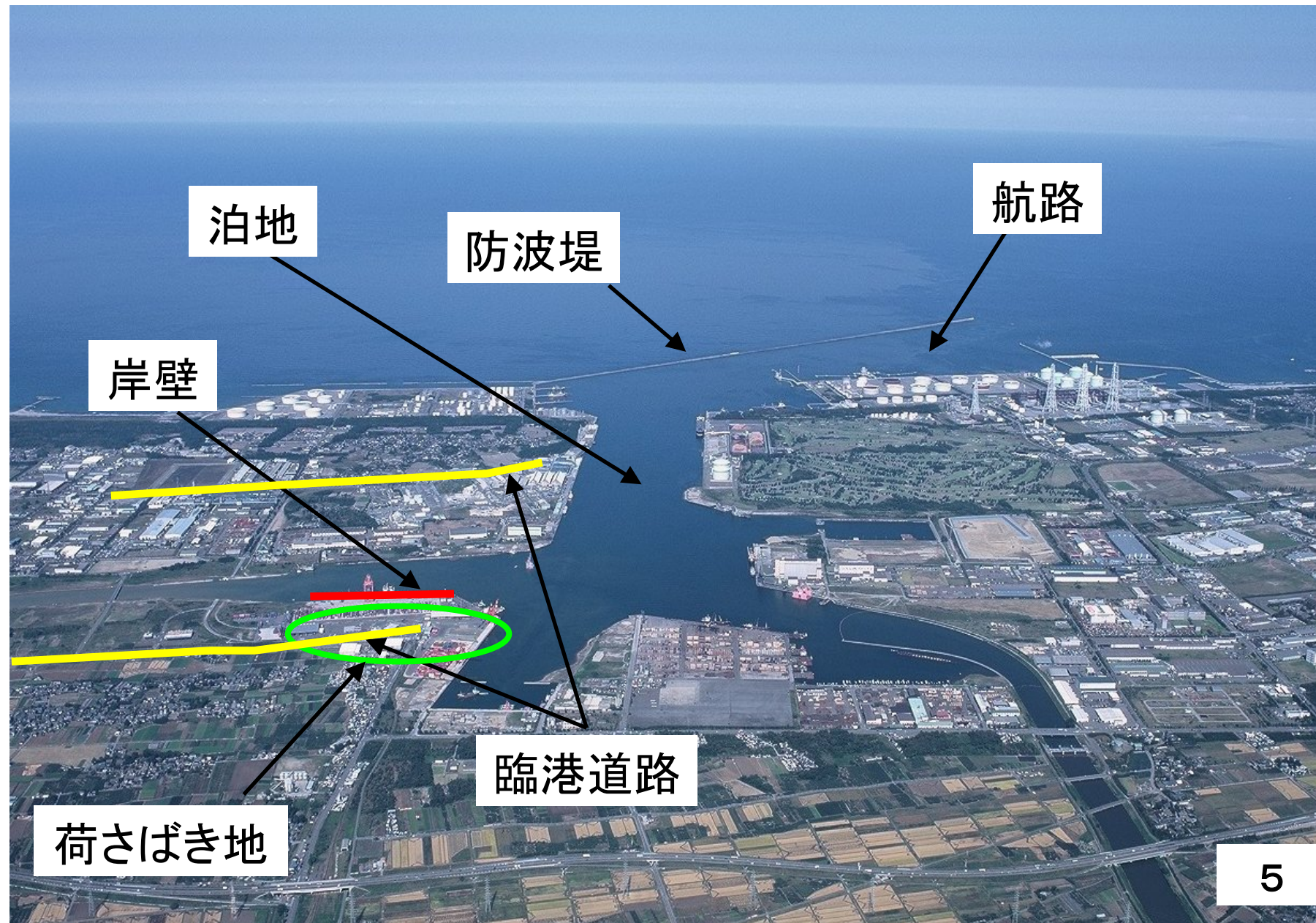
出典：国土交通省海事局外航課公表資料

Ⅱ．港湾事業の事業評価手法

費用対効果分析の手順



港の構成



プロジェクトの特定

◎プロジェクトの定義

→ 特定の機能を発揮するために必要な一連の施設群であって
同時期に一体的に整備される施設群



プロジェクトの種類

◎プロジェクトの分類: 20種類

- 1) 国際海上コンテナターミナル整備プロジェクト
- 2) 複合一貫輸送に対応した内貿ターミナル整備プロジェクト
- 3) 多目的国際ターミナル整備プロジェクト
- 4) 国内物流ターミナル整備プロジェクト

（目的：
輸送の効率化等）

- 5) 旅客対応ターミナル整備プロジェクト
（目的: 寄港する旅客船の見学に伴うにぎわいの発生等）

- 7) 防波堤プロジェクト
（目的: 港内の静穏度を向上させ、港内の利用価値を向上させる等）

- 12) 港湾緑地整備プロジェクト
（目的: 港湾来訪者の交流機会の増加等）

etc

➡ 投資目的、内容に応じてプロジェクトを選定し便益を計上

◎複数の機能が発揮されるプロジェクトの扱い → 更に便益を追加計上

【例】旅客船ターミナル + 港湾緑地

- 1) 旅客対応ターミナル整備プロジェクトで費用対効果分析
- 2) 港湾緑地整備プロジェクトの便益を上記の分析に追加

便益項目の抽出

(例)

効果の帰属	効果の分類	効果の項目の例	多目的国際T	臨港道路	旅客対応T
利用者	輸送・移動	輸送コストの削減	○	○	
		移動コストの削減		○	○
		輸送の信頼性の向上			
		移動の快適性の向上			
	交流・レクリエーション	水域利用機会の増加			△
		交流機会の増加			○
	環境	港湾就労者の就労環境の改善			
		旅客の港湾利用環境の改善			
	安全	海難の減少			
		交通事故の減少		○	
	業務	業務コストの削減			
		業務機会の増加			
供給者	収益	港湾管理者・オペレータ等の収益			
地域社会	輸送・移動	既存施設の混雑緩和	△		
		道路の混雑緩和		一部○	
	環境	地域環境の保全・向上	△or▲	△	△
		公害の防止			
	安全	災害時の被害軽減			
	地域経済	雇用・所得の増加	×	×	×
		国際競争力の向上	×	×	×
公共部門	租税	地方税・国税の増加	×	×	×
	費用縮減	維持浚渫費用の削減			

貨幣換算できる効果



○: 便益として計上

貨幣換算出来ない、
又は困難な効果



△: 定性的に把握
▲: 定量的に把握

国民経済的に帳消
しされる



×: 計測しない

複合的な施設の場合は、
便益等も組み合わせる。

費用便益分析の実施

【イメージ図】

